

## 平成 24 年度厚生労働科学研究費補助金 (地域医療基盤開発推進研究事業)

臨床研修アンケート 臨床知識・技術・態度の習得状況と経験症例数

対象：2011 年度 2 年次研修医 回答者数：5052 名

表 1. 研修医の特性

	大学病院 (n=2,424)	臨床研修病院 (n=2,628)	全体 (n=5,052)
年齢, yrs, m (SD)	28 (3)	28 (3)	28 (3)
男性, n (%)	1,429 (59.0)	1,836 (69.9)	3,265 (64.6)
継続 PG 所属, n (%)	584 (24.1)	1,132 (43.1)	1,716 (34.0)

継続 program (PG)・・・内科 6 か月以上、外科 1 か月以上、救急 1 か月以上、麻酔科 1 か月以上、産婦人科 1 か月以上、小児科 1 か月以上、精神科 1 か月以上、地域保健・医療 1 か月以上を満たすプログラムの研修医

### 1. 基本的臨床知識・技術・態度の習得状況について

#### [1] H14～H23 の経時的検討：全体

H23 は H17～H19 と比較して、概ね変化なし、または軽度増加

#### [2] H14～H23 の経時的検討：大学病院研修医と臨床研修病院研修医

概ね変化なし。または軽度増加。

#### [3] H23 年度の大学病院研修医と臨床研修病院研修医との横断比較（表 1）

\*98 項目中、23 項目が臨床研修病院研修医のほうが、大学病院研修医に比べて有意に「確実にできる、自信がある」または「だいたいできる、たぶんできる」と答えた研修医の割合が多く、22 項目が大学病院研修医のほうが、臨床研修病院研修医に比べて、有意に「確実にできる、自信がある」または「だいたいできる、たぶんできる」と答えた研修医の割合が多かった。

#### [4] H23 年度の継続 PG 研修医と弾力化 PG 研修医との横断比較（表 2）

\*98 項目中、14 項目は継続 PG 研修医のほうが、弾力化 PG 研修医に比べて、有意に「確実にできる、自信がある」または「だいたいできる、たぶんできる」と答えた研修医の割合が多く、2 項目は弾力化 PG 研修医のほうが継続 PG 研修医に比べて、有意に「確実にできる、自信がある」または「だいたいできる、たぶんできる」と答えた研修医の割合が多かった。

### 2. 経験症例数について

#### [1] H14～H23 の経時的検討：全体

H23 は H17～H19 と比較して、概ね変化なし、または軽度増加

#### [2] H14～H23 の経時的検討：大学病院研修医と臨床研修病院研修医

「妊娠」、「小児ぜんそく」は「1 症例以上経験した」と回答した研修医の割合が減少

#### [3] H23 年度の大学病院研修医と臨床研修病院研修医との横断比較（表 3）

\*85 項目中、13 項目は臨床研修病院研修医のほうが大学病院研修医に比べて、有意に「1 症例以上経験している」と答えた研修医の割合が多く、1 項目は大学病院の研修医のほうが臨床研修病院の研修医に比べて、有意に「1 症例以上経験している」と答えた研修医の割合が多かった。

#### [4] H23 年度の継続 PG と弾力化 PG の横断的検討（表 4）

\*85 項目中、13 項目は継続 PG 研修医のほうが弾力化 PG 研修医に比べて、有意に「1 症例以上経験している」と答えた研修医の割合が多く、1 項目は弾力化 PG 研修医のほうが継続 PG 研修医に比べて、有意に「1 症例以上経験している」と答えた研修医の割合が多かった。

### 3. プログラム実施内容の実態について

弾力化 PG についても、内科 6 か月以上、救急 3 か月以上、地域保健・医療 1 か月以上が求められている。救急は当直業務などで経験した月数を正確に割り出すことが困難なため、内科 6 か月以上を満たされているかどうか、また内科 6 か月以上および地域・保健 1 か月以上を満たされているかを検討した。尚、回答された合計の月数が 20 か月に満たない研修医の回答は、正確に回答が行われていないことが考えられるため、分析からは除外した。分析に使用した研修医数は 4182 名(4182/5052=82.8%)。

**【1】 内科 6 か月以上または地域保健・医療 1 か月以上が満たされていない研修医の数**

内科 6 か月以上または地域保健・医療 1 か月以上が満たされていない研修医の数は、全体の 6.5%であった。

**【2】 内科 6 か月以上が満たされていない研修医の数**

内科 6 か月以上が満たされていない研修医の数は、全体の 2.0%であった。

**【3】 各診療科の履修状況 (分析に使用した研修医数は 4156 名(4156/5052=82.3%))**

内科 6 か月以上が満たされていない研修医の数	84 (2.0%)
外科 1 か月以上が満たされていない研修医の数	349 (8.3%)
救急 1 か月以上が満たされていない研修医の数	204 (4.9%)
麻酔科 1 か月以上が満たされていない研修医の数	373 (8.9%)
産婦人科 1 か月以上が満たされていない研修医の数	1430 (34.2%)
小児科 1 か月以上が満たされていない研修医の数	944 (22.6%)
地域保健・医療 1 か月が満たされていない研修医の数	193 (4.6%)
精神科 1 か月以上が満たされていない研修医の数	983 (23.5)

内科にまったく回っていない研修医の数	1 (0.02%)
外科にまったく回っていない研修医の数	342 (8.2%)
救急にまったく回っていない研修医の数	195 (4.7%)
麻酔科にまったく回っていない研修医の数	356 (8.5%)
産婦人科にまったく回っていない研修医の数	1234 (29.5%)
小児科にまったく回っていない研修医の数	856 (20.5%)
地域保健・医療にまったく回っていない研修医の数	192 (4.6%)
精神科にまったく回っていない研修医の数	650 (15.5%)

#### 【4】 産婦人科症例数

産婦人科の症例数が0であった研修医の数は、504名（10.4%）であった。産婦人科を1か月以上回った研修医の群と1か月未満の群で比較をすると、有意に1か月以上回った群のほうが経験症例数1例以上の割合が高く、1か月は産婦人科ローテーションを経験したほうがよいと考えられる。

	産婦人科にまったく回っていない	産婦人科に少しでも回った	p-value
妊娠・分娩の経験症例数が1例以上ある	984 (66.8%)	3455 (99.6%)	p < 0.01
妊娠・分娩の経験症例数が0例である	490 (33.2%)	14 (0.4%)	

#### 【4】 小児科症例数

	小児科にまったく回っていない	小児科に少しでも回った	p-value
小児ウイルス感染症の経験症例数が1例以上ある	662 (79.2%)	3227 (98.8%)	p < 0.01
小児ウイルス感染症の経験症例数が0例である	174 (20.8%)	39 (1.2%)	

	小児科にまったく回っていない	小児科に少しでも回った	p-value
小児ぜんそくの経験症例数が1例以上ある	130 (73.4%)	751 (96.4%)	p < 0.01
小児ぜんそくの経験症例数が0例である	47 (26.6%)	28 (3.6%)	

	小児科にまったく回っていない	小児科に少しでも回った	p-value
小児けいれんの経験症例数が1例以上ある	123 (69.5%)	751 (96.3%)	p < 0.01
小児けいれんの経験症例数が0例である	54 (14.1%)	29 (3.7%)	

表 1

基本的臨床知識・技術・態度の習得状況		N (%) 臨床研修病院	N (%) 大学病院
臨床研修病院の研修医が「確実にできる、自信がある」または「だいたいできる、たぶんできる」と回答した割合が有意に高い項目 (23 項目)	鼓膜を観察し、異常の有無を判定できる	57.5%	51.1%
	ラ音を聴取し、記載できる	92.7%	90.3%
	直腸診で前立腺の異常を判断できる	58.7%	53.9%
	妊娠の初期兆候を把握できる	50.8%	46.6%
	骨折、脱臼、捻挫の鑑別診断ができる	62.1%	52.1%
	髄液検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる	82.0%	76.8%
	超音波検査を自ら実施し、胆管拡張の判定ができる	75.1%	68.8%
	胸部単純 X 線でシルエットサインを判定できる	92.4%	88.3%
	腹部単純 X 線でイレウスを判定できる	95.3%	91.9%
	胸部 CT で肺癌による所見を見出すことができる	86.9%	84.2%
	頭部 MRI 検査の適応が判断でき、脳梗塞を判定できる	92.2%	86.8%
	腰椎穿刺を実施できる	88.6%	82.4%
	抗菌薬の作用・副作用を理解し、処方できる	94.1%	91.1%
	局所浸潤麻酔とその副作用に対する処置が行える	89.3%	84.4%
	皮膚縫合法を実施できる	92.2%	85.7%
	気管挿管ができる	96.0%	89.6%
	レスピレーターを装着し、調節できる	75.2%	68.1%
	救急患者の重症度および緊急度を判断できる	90.3%	78.0%
	ショックの診断と治療ができる	85.7%	76.8%
	インフォームドコンセントをとることが実施できる	91.3%	88.2%
高齢者の身体的、精神的、社会的活動性をできるだけ良好に維持するような治療法を提示することができる	78.6%	76.0%	
患児の年齢や理解度に応じた説明ができる	83.0%	80.2%	
基本的な臨床知識・技術について後輩を指導することができる	84.6%	81.3%	

大学病院の研究医が「確実にできる、自信がある」または「だいたいできる、たぶんできる」と回答した割合が有意に高い項目 (22項目)	患者と非言語的コミュニケーションができる	94.4%	97.2%
	眼底所見により、動脈硬化の有無を判定できる	24.2%	36.6%
	甲状腺の触診ができる	73.6%	77.8%
	心尖拍動を触知できる	86.8%	88.8%
	双手診により女性附属器の腫脹を触知できる	30.9%	38.3%
	尿沈査の鏡検で、赤血球、白血球、円柱を区別できる	45.7%	53.7%
	便の潜血反応を実施し、結果を解釈することができる	85.6%	87.8%
	血液免疫血清学的検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる	80.2%	88.7%
	内分泌学的検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる	67.4%	80.7%
	血液型クロスマッチを行い、結果の判定ができる	72.5%	80.5%
	術前患者の不安に対し、心理的配慮をした処置ができる	88.9%	93.3%
	緩和ケア（WHO 方式がん疼痛治療法を含む）のチーム医療に参加できる	64.2%	72.6%
	日常よく行う処置、検査等の保険点数を知っている	33.7%	43.3%
	ソーシャルワーカーの役割を理解し、協同して患者ケアを行える	71.7%	78.6%
	診療上湧き上がってきた疑問点について、Medline で文献検索ができる	80.2%	87.0%
	カンファレンス等で簡潔に受持患者のプレゼンテーションできる	91.2%	94.4%
	データの種類に応じて適切な統計学的解析ができる	42.1%	52.3%
	小児の精神運動発達の異常を判断できる	49.0%	56.5%
	代表的な精神科疾患について、診断および治療ができる	59.8%	71.1%
	精神科領域の薬物治療に伴うことの多い障害について理解し、適切な検査・処置ができる	54.8%	59.2%
	精神科コ・メディカルスタッフ（PSW 等）の業務を理解し、連携してケアを行うことができる	69.6%	78.9%
	地域の精神保健福祉に関する支援体制状況に関する知識を持ち、適切な連携をとることができる	66.2%	74.7%

表 2

基本的臨床知識・技術・態度の習得状況		N (%) 継続 PG	N (%) 弾力化 PG
継続 PG に所属する研修医において、「確実にできる、自信がある」または「だいたいできる、たぶんできる」と回答した割合が有意に高い症例 (14 項目)	鼓膜を観察し、異常の有無を判定できる	58.6%	52.2%
	直腸診で前立腺の異常を判断できる	59.2%	54.9%
	妊娠の初期兆候を把握できる	56.2%	44.9%
	うつ病の診断基準を述べることができる	59.6%	53.9%
	髄液検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる	82.4%	78.1%
	手術の手洗いが適切にできる	99.8%	98.4%
	腰椎穿刺を実施できる	88.9%	83.9%
	救急患者の重症度および緊急度を判断できる	87.0%	83.1%
	ショックの診断と治療ができる	83.4%	80.4%
	糖尿病患者への健康教育 (健康相談および指導) ができる	78.6%	75.8%
	小児の採血、点滴ができる	77.0%	69.6%
	患児の年齢や理解度に応じた説明ができる	84.2%	80.3%
	精神科領域の薬物治療に伴うことの多い障害について理解し、適切な検査・処置ができる	59.8%	55.3%
	精神科コ・メディカルスタッフ (PSW 等) の業務を理解し、連携してケアを行うことができる	77.3%	71.3%
弾力化 PG に所属する研修医において、「確実にできる、自信がある」または「だいたいできる、たぶんできる」と回答した割合が有意に高い症例 (2 項目)	簡易検査 (血糖、電解質、尿素窒素など) の適応が判断でき、結果の解釈ができる	96.8%	98.9%
	学会で症例報告ができる	67.3%	74.6%

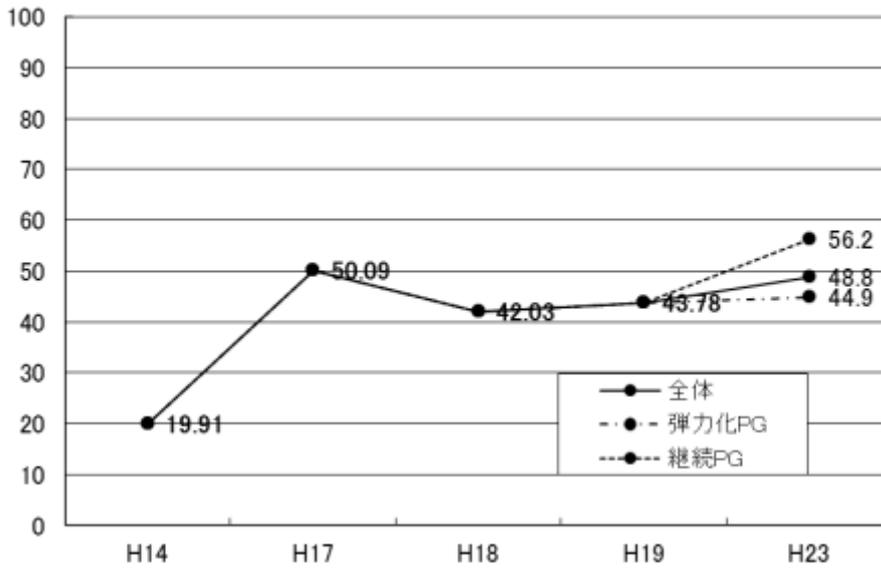
表 3

経験症例数		N (%) 大学	N (%) 臨床研修 病院
臨床研修病院 の研修医にお いて、「1 症例以 上」経験した割 合が有意に高 い症例 (13 項目)	排尿障害(尿失禁・排尿困難)	99.7%	100.0%
	急性消化管出血	98.7%	99.7%
	蕁麻疹	99.5%	99.8%
	関節の脱臼、亜脱臼、捻挫、靭帯損傷	93.9%	97.6%
	脊柱障害(腰椎椎間板ヘルニア)	96.5%	99.1%
	妊娠分娩(正常妊娠、流産、早産、正常分娩、産科 出血、乳腺炎、産褥)	85.8%	93.5%
	男性生殖器疾患(前立腺疾患、勃起障害、精巣腫 瘍)	88.9%	94.9%
	中耳炎	90.6%	94.9%
	ウイルス感染症(インフルエンザ、麻疹、風疹、水 痘、ヘルペス、流行性耳下腺炎)	99.6%	100.0%
	小児けいれん性疾患	87.9%	93.8%
	小児ウイルス感染症(麻疹、流行性耳下腺炎、水 痘、突発性発疹、インフルエンザ)	91.7%	97.4%
	小児喘息	86.2%	96.1%
	高齢者の栄養摂取障害	99.3%	100.0%
大学病院の研 修医において、 「1 症例以上」 経験した割合 が有意に高い 症例 (6 項目)	自殺企図	97.0%	94.0%
	骨折	98.6%	99.5%
	屈折異常(近視、遠視、乱視)	88.0%	80.2%
	白内障	96.1%	90.7%
	緑内障	86.1%	82.4%
	慢性関節リウマチ	98.0%	95.4%

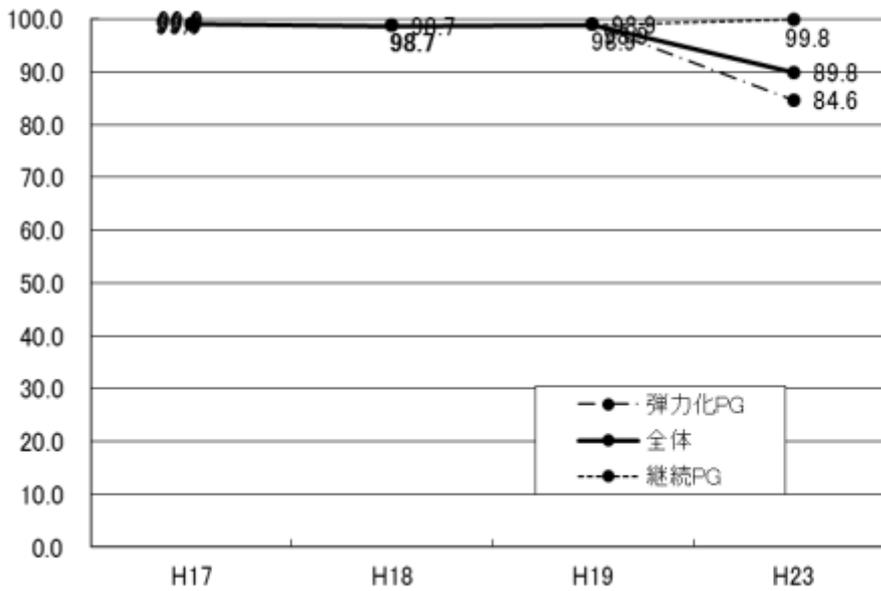
表 4

経験症例数		N (%) 継続 PG	N (%) 弾力化 PG
継続 PG に所属 する研修医に おいて、「1 症例 以上」経験した 割合が有意に 高い症例 (13 項目)	皮膚感染症	99.8%	98.5%
	関節の脱臼、亜脱臼、捻挫、靭帯損傷	96.8%	95.3%
	狭心症、心筋梗塞	100.0%	99.7%
	妊娠分娩(正常妊娠、流産、早産、正常分娩、産科 出血、乳腺炎、産褥)	99.8%	84.6%
	男性生殖器疾患(前立腺疾患、勃起障害、精巣腫 瘍)	95.3%	90.3%
	角結膜炎	92.4%	89.2%
	緑内障	86.2%	83.1%
	うつ病	99.8%	99.4%
	統合失調症	100.0%	98.4%
	身体表現性障害、ストレス関連障害	99.5%	96.5%
	小児けいれん性疾患	97.2%	88.3%
	小児ウイルス感染症(麻疹、流行性耳下腺炎、水 痘、突発性発疹、インフルエンザ)	99.1%	92.4%
	小児喘息	97.5%	89.2%
弾力 PG に所属 する研修医に おいて、「1 症例 以上」経験した 割合が有意に 高い症例 (1 項目)	慢性関節リウマチ	94.7%	97.4%

妊娠の初期兆候を把握できる



妊娠分娩(正常妊娠、流産、早産、正常分娩、産科出血、乳腺炎、産褥)



小児けいれん性疾患

